

## 第2部 個別港灣事例



# コンテナ定期航路の就航により 荷主の利便性が向上

おたる  
file01 **小樽港**

対象施設 中央地区多目的国際ターミナル 岸壁(-12m)  
供用 平成12年

小樽港は、平成14年9月に中国と直接結ぶ定期コンテナ航路が開設された。それによって韓国（釜山）を経由せず直接小樽港に入港することで到着日が明確となり、荷主から小売店等への納期に遅れが生じるリスクが少なくなった。

さらに、平成15年11月にはガントリークレーンの導入により荷役効率が1.7倍に向上し、平均荷役時間は11.2時間から7.4時間に減少、物流コストも削減し、より効率的な荷役サービスの提供が可能となった。



●北海道新聞（平成14年9月19日）

コンテナ航路開設に先立ち、船舶代理店ではコンテナシャーシを新たに購入し、企業の新たな設備投資をしている。昨年12月から道内産の秋サケ漁が豊漁で、中国向けの輸出コンテナが11月全体では輸入が243個に対し、輸出が214個とほぼ同数、冷凍サケが約72%を占めている状況であり、輸出に関しては前年同月比、2.4倍程度の伸びを記録した。

●ガントリークレーンの使用による効率的な荷役  
自船クレーンによる荷役



ガントリークレーン荷役作業

